

## 「ハウスメーカーストック住宅のリフォーム調査」調査結果概要

1. 実施者 三菱液化ガス株式会社

2. 調査概要

(1)目的

家庭用エネルギーを顧客が選択・変更することが多い、「住宅リフォーム」に焦点を当て、「今までに実施したリフォーム」と「今後実施しようとしているリフォーム」において、どのような「不満点や重視点」を抱いてリフォームを行ったのか、また行おうとしているのかということ、及び、リフォーム時のエネルギー選択の経緯やニーズを把握することにより、LP ガス販売事業者が「住宅リフォーム」に関わることの重要性和事業ポジションを明確に認識、ガスやガス機器から発想していた従来の事業スタイルから、生活者の視点に立脚した事業スタイルへと再構築を行い、電化や灯油対抗に資することを目的とした。

(2)実施方法

ハウスメーカーが販売した一戸建てストック住宅を中心とした、全国9,000戸の住宅を調査対象とし、リフォーム時におけるエネルギー選択・ニーズに関するアンケート調査票を郵送する方法にて実施した。

結果、2,044件(回収率22.7%)の有効回答が得られた。

3. 調査結果概要

<LP ガス使用住宅>

- リフォームの経験は約60%、今後5年以内のリフォーム意向は約48%。
- 住まいの満足度では、キッチン、浴室、洗面所、居室の満足度は低い。
- 過去もこれからも、キッチン、浴室、洗面所、居室のリフォームが多い。
- 古くなったからといった理由だけでリフォームは行わない。
- リフォームは、比較的新しい住宅でも行われている。特にキッチン。
- リフォームを依頼する業者に、エネルギー関連事業者はほとんどない。
- LP ガス使用住宅へのリフォーム営業は電力関連事業者が多い。
- 顧客の省エネルギー意識は高まっており、情報提供は電力関連事業者が多い。
- 過去のキッチンリフォームでは、約22%が給湯エネルギーを変更した。
- これからのキッチンリフォームで採用するコンロは、約66%がIH。
- 過去の浴室リフォームでは、22%が給湯エネルギーを変更した。
- これからの浴室リフォームで採用する浴暖は、約65%が電気。

- 過去の洗面所リフォームでは、約17%が給湯エネルギーを変更した。
- 過去の居室のリフォームでは、19%が暖房エネルギーを変更した。
- これからの居室リフォームでは、約55%が電気の暖房に変更する。
- これからの居室リフォームで採用する床暖房は、約61%が電気。
- LPガス販売事業者は、リフォームに関わらないと電化が進む。

#### 4. 調査結果から得られた効果

リフォームニーズはキッチン・浴室・洗面所・居室に高く、リフォーム時にエネルギーの変更・選択が多いことや電化リフォームの意向も強いこと等、LPガス販売事業者がリフォームに関わることの重要性が判明した。

#### 5. 調査結果の今後の活用、調査結果を踏まえた今後の取り組み

LPガス販売事業者がLPガス事業の中にリフォームを組み込むことの重要性と必要性を認識し、また具体的な実行を行っていけるよう全国のLPガス販売事業者並びに住宅関連事業者にも情報発信を行い、今後、構造改善セミナーや個別事業者への指導を通してLPガス産業並びにLPガス事業者の事業強化に結びつけていく。

#### 6. 補助金確定額 19,581,541 円

以上